



■多彩な自然と文化が育む「さが」の地にて

第53回建築士会全国大会の行われる佐賀へまちづくり交流プラザのブース設営のために、大会前日にやってきました。

景観整備機構では、全国大会まちづくり交流プラザへ毎年出展しており、今年から委員となった私と西山常務の二人で、佐賀県総合体育館内の1間×1.5間の大きさのブース準備を行いました。



佐賀県は有明海や玄界灘に面しており海産物（特にするめいか）が豊富です。また畜産でも佐賀牛が有名だそうです。地元で食べた夕食は、袋井から新幹線と特急を乗り継ぎ約6時間かかった長旅の疲れも忘れさせてくれるものでした。

■大会当日



全国各地から訪れた参加者で交流プラザは混雑しています。北海道や千葉、岡山、石川など様々な県の方々が入れ替わり立ち代わり景観整備機構のブースを訪れてくれました。



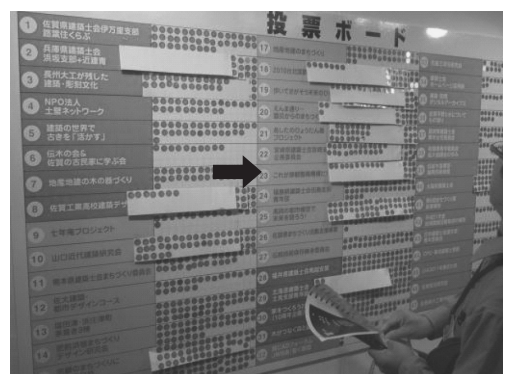
※ブース紹介する西山常務

■景観先進県？

ブースで他県の建築士会の方々からは「静岡さんは景観の先進県だから」とよく言われました。昨年度だけでも景観行政団体の市から3件の委託事業を受けていることが評価されているのです。

建築士が景観に責任を持つという宣言を行っている静岡県建築士会の姿勢が行政に評価されて少しずつ実績に繋がっていることと、自主事業で行っている会員に対する研鑽の結果と改めて自覚しました。

しかし、個々の建築士の景観に対する意識が全て高まっている訳ではなく、行政からも景観整備機構をイコールパートナーとして全幅の信頼を置かれるまでに至っている訳でもないと思います。本当の意味で景観先進県と言われるのにはまだまだ道半ばです。今はまだやっと行政と景観について語り合うテーブルにつけたに過ぎないのではないかと、やっとボランティア団体でなくなりました。



※おしくも表彰台は逃したが健闘しました。

(景観整備機構 委員 倉田 裕司)